

震災教訓の共有むすび塾@インドネシア（河北新報社と共催）

掲載日:2013年05月15日

(C)河北新報社

鎮魂込め

津波の高さを示した碑。津波の記憶を風化させまいと、市内の至る所に設置されている。ロウソクを燃した形に、犠牲者への追悼の思いを込めたパンダアチェ市内



日本からの約5000名、約100名を擁する「震災を語り継ぐワークショップ」が、2013年5月15日、インドネシアのジャババで開催された。ワークショップは、2011年3月11日の東日本大震災を語り継ぎ、被災地の現状や復興の進捗について、参加者同士で話し合い、互いの経験を共有する機会を創出する。ワークショップは、2011年3月11日の東日本大震災を語り継ぎ、被災地の現状や復興の進捗について、参加者同士で話し合い、互いの経験を共有する機会を創出する。ワークショップは、2011年3月11日の東日本大震災を語り継ぎ、被災地の現状や復興の進捗について、参加者同士で話し合い、互いの経験を共有する機会を創出する。

悲劇を忘れない

震災の風化と闘うインドネシア

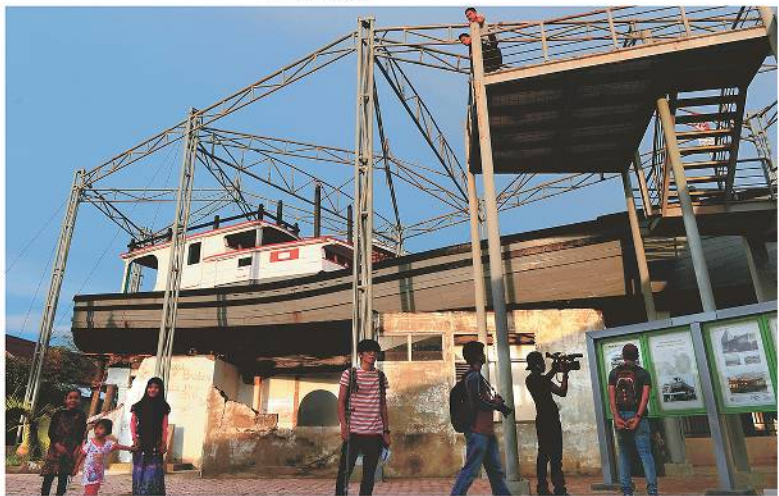
後世へ



帯状的に津波に襲えたイスラム教の寺院で、祝祭祭典をする子どもたち。祝祭の記憶をどう後世に引き継いでいくか、津波は重く大きいパンダアチェ市内

命の船

津波で船から何もかも流され、民家の屋敷に乗り上げた船舶。逃げ遅れた9人の住民が乗り込み、助かったという。見学用にスロープとやねらが設けられ、国内外から訪れる人が絶えない。パンダアチェ市内



破壊力

小さな漁村を流れる川の河口で、津波に襲われた当時の家を遺す構図。巨大津波の破壊力を物語る。パンダアチェ市ムラクラス地区



苦悩訴え

津波博物館には、被災当時の写真を展示するコーナーがある。静い空間に次々と写真が映し出され、見る者に住民の悲しみや苦悩を訴える。パンダアチェ市内

安らかに

津波で犠牲となった1万5000人が上葬された共同墓地。イスラム教のコーランを刻んだ碑に囲まれている。小さな数珠などの土間に、多くの亡き方を一度に葬るしかなかったのは、気温が30度を超えて悪化した震災事情があったという。パンダアチェ市内



手作り

住民手作りの津波メモリアル。村を襲った津波の高さに大粒したトラックを並べ、「津波のTSUNAMI」と記した。インドネシア・アチェ州